

安心して暮らしつつづけられる新潟市へ 全力

シニア半わり(高齢者のバス運賃半額制度)の改善を市に求める

「シニア半わり」は、65歳以上の方が「りゅーとカード」を「シニア半わりカード」に切り替えるか、新たに「シニア半わり」カードを申し込むと新潟交通のバス運賃が半額になるという制度です。高齢者の長年の要望が実現しました。

ところが、その受付が市役所分館で8月29日から9月2日の間に限定されており、それ以降は新潟交通のバスセンターか営業所でのみの受付とされていることから、「身近な場所で受付を」という声があがっていました。

市議団は8月22日、①申込み窓口は、期間延長も含め、区役所など市民の身近な場所で受け付けるよう改善すること②今後、高齢者の公共交通無料化も視野に検討を進めること—の2点を市に申し入れました。

市側は、身近な場所での受付について「そういう市民の声は聞いている」とし、「検討する」と答えました。



修の原則自己負担化については、新潟市の軽度者(要支援1)要介護2)の全認定者に占める割合は6割におよび、改悪されれば深刻な影響が出るにもかかわらず、市は「国の検討を注視していく」との答弁にとどまりました。

答弁は「緩和サービスAは導入する方向だが、大きな混乱がないように、すでに介護保険を利用して人に付いては、本人からの希望があれば当分の間、現行サービスAを保障する」というものでした。

来々年4月から実施される新総合事業については、事業所の経営を圧迫し利用者サービスの低下をもたらす緩和サービスAは導入せず、現行サービスを維持するよう求めました。

介護保険の改悪にストップを



平あや子

平あや子議員は、市民の切実な声をとりあげて議会質問するとともに、地域のみなさんとともに市役所や区役所に働きかけ、住民要望の実現に力をつくっています。

給付型奨学金の導入・拡充を求める

日本共産党議員団は6月議会で、「給付型奨学金の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める意見書」を提案。平あや子議員が提案理由を説明しました。

現在、大学生の5割超、大学院生の6割超が何らかの奨学金を利用しています。大学授業料が上がり続けている一方、世帯年収が減り続け、親からの仕送りは過去最低となっています。しかも奨学金の多くは有利子で、実態は学生に借金をさせる「学生ローン」です。

平議員は、「憲法が保障する教育の機会均等が侵害され、高い学費と奨学金返済という借金が、新たな貧困を生み出している」と指摘。「先進国の中で、突出して授業料が高く、返済不用の給付型奨学金がないのは日本だけ。年間2500億円があればすぐに実現できる」と、給付型奨学金の創設を政府に求めるよう訴え、意見書の採択を求めました。



安保法制の発動ゆるさず廃止を

日本共産党議員団は9月議会で、他会派に働きかけ、「安保法制の具体化と発動を許さず、廃止を求める意見書」を共同提案。平あや子議員が提案理由を説明しました。

平議員は、内戦状態にある南スーダンに派遣する自衛隊部隊に新たな任務を与え、武器使用を拡大することは、自衛隊員が戦後初めて「殺し、殺される」深刻な事態を招くと訴え、意見書の採択を求めましたが、自民党系



会派と公明党などの反対多数で不採択となりました。

